

和歌山県日高郡美浜町のアスペクト

岸 江 信 介

I. はじめに

(1) 調査対象地： 美浜町は、和歌山県中部に位置し、御坊市に隣接する。漁業と農業が中心である。旧和田村、旧三尾村、旧松原村の三村が昭和29年10月1日に合併し、美浜町となった。和歌山市までは車で約1時間30分、御坊市までは約10分程度の距離にある。戸数約3,000戸、人口約8,000人である。明治10年代後半から明治20年代にかけて多くの人々が海外に渡航した。三尾村がアメリカ村と呼ばれるようになったのは、このことに始まる。今回の調査は、和田村で行った。なお、三尾村は漁業が、和田村は農業が中心である。

(2) 調査年月日時：1993年12月28日午後1時～午後3時

(3) 話者：久保豊治氏（大正7年9月17日生）

(4) 調査者・調査場所：話者自宅（飛び込み調査による）

(5) 調査方法：調査票に基づく質問法によった。

(6) 表記方法：「調査要綱」に従い、文末詞は必須なもの以外、なるべく記述に加えないよう配慮した。アクセント表記には、カギ式を使用し、上昇（「）・下降（∟）、それぞれの位置を示すことにした。

話部（文節相当）単位で分かち書きにした。

II. 調査結果

1. (昔は)よく行ったものだね 「ヨ」ー 「イ」ッタ 「モ」ンヤ
2. (あのころは)おもしろかったなあ 「オモシロ」カッタ
3. (もうちょっとで)落ちるところだった オチル 「ト」コヤッタ
4. (今にも)落ちそうだよ オチ「ル」ゾ
5. (財布を)落として ①「オ」トシテ（シは時々ヒに近く聞こえ、シの母音はほとんど無声化することはない。）／②「オ」トイテ（特に古老に限る。s音はh音と交替し易く、かつシの母音は無声化することが少ないので、サ行4段動詞の連用形がイ音便化する。但し、この傾向は、近年急激に減っている。）
6. 困っている 「コマッテル
7. (一本の蠟燭がいまにも)消えそうだよ ①「ケール」ド／②「キエル」ゾ（ケールは、老年層に限られ、中・若年層ではキエルが用いられる。）
8. (今)消えようとする ①「キエル／②「ケール（老年層に主として使われる。）
9. (完全に)消えた（瞬間） 「キ」エタ
10. (すでに)消えていたよ 「キエ」タッタ（主に老年層で使う。若年層ではキエテ

タ。両形式は意味的違いにより使い分けられるというよりも、形式の使用に世代差があるものと思われる。)

11. (何本もの蠟燭が順に) 消え始めた 「キエカカ」ッタ
12. (何本もの蠟燭が次々に) 消えていくなあ 「キエテク
13. (何本もの蠟燭が順に) 消えているよ 「キエテク
14. (何本もの蠟燭が全部) 消えているよ 「キエ」タル(老・若の世代差によるものははっきり断定できないが、キエテルとを併用する。近畿中央部〔京阪〕方言のように、キエタルというようにタの母音が長音化することはない。なお、近畿中央部方言でもこの種の傾向があり、結果態が本来現れなければならないところに、継続態の形式が用いられることがある。)
15. (何本もの蠟燭の火を次々) 消しているよ 「ケシテク
16. (もう全部) 消しているか ①「ケシテルカ／②「ケシ」タルカ(主に中・老年層が使う。若年層ではテルの使用が多いが、老年層もタル、テルを併用する。)
17. (今にも桜が) 散りそうだ ①「チリソ」ーヤ／②「チリソ」ーナ(老年層に限って使用される。チリソーナで言い切られることはなく、文末詞「ナー」等と常に一体となって用いられる。)
18. (ちらほらと) 散り始めた ①「チリダ」シタ／②「チリダ」イタ(老年層のみに使用が限定される。老年層では、現在でもイ音便形をよく用いている。)
19. (今現に) 散っている 「チッテル
20. (桜の木がすっかり) 散っている ①「チ」ッタル／②「チッテル(本来、チッタルは結果態として、チッテルは継続態として使われるが、チッテルは動作が完了したこのケースにも現れる。老年層と比較して若年層では、この傾向が顕著である。)
21. (地面一面に) 散っている 「チ」ッタル
22. (今にも) 降りそうだ ①フリ「ソ」ーヤ／②フリ「ソ」ーナ 「ナー(古老層に限って使用される。フリソーナでは言い切られることはなく、文末詞と一体となっている。)
23. (あの時は今にも雨が) 降りそうだったなあ フリ「ソ」ーヤッタ
24. (あの時はもう実際に雨が) 降っていたよ フッ「テ」タ
25. (あの時はやがて夜が) 明けようとしていた 「アケカケテ」タ
26. (来年の今ごろは家を) 建てている タテテ「ル
27. (来年の今ごろは家をすでに) 建てている タテ「タ」ル
28. (あの家はよく) 磨いてある ①「ミガイテル／②「ミガイ」タル(テルとタルを併用するが、この場合、老年層では主としてタルを、若年層ではテルを使用する傾向がある。)
29. (隣の犬が) 鳴いている ①「ナイテル／②「ナキ」ヨル(進行を表す形式としてテ

ルを主に用いるが、待遇 [= 軽卑] 的な意味が加わる場合にヨルを使用する。従ってこの地のヨルは、純粹にアスペクトのみを表すのではなく、待遇絡みである。つまり、アスペクト的側面と待遇的側面との両者の意味を合わせ持つ。これは近畿中央部〔京阪〕方言と共通するが、大阪南部諸方言や和歌山紀北諸方言ではこのような傾向は認められない。これらの方言ではヨルは使用されない。)

30. (隣の子が)泣いている ①「ナイテル」/②「ナキ」ヨル(前項に同じ。)
31. (こどもたちが)喧嘩している ①「シ」ヨル/②「シテル」(前項に同じ。)
32. (家に)いるかなあ ①アル 「カ」イ 「ナ」ー/②イ「ル」カ(ここの方言では人の存在を表す場合に「いる」・「おる」を用いず、「ある」を用いるという点が特徴的である。アルは、老年層に使用が限定される。以下、イルとアルとの使用には世代差が色濃く反映しているものと思われる。)
33. (〇〇さん)いるか ①アル 「カ」/②イ「ル」カ(「いないか」はナイ「カ」を用いる。イルは若年層が用い、アルは老年層に限られる。)
34. (ああ)いるよ ①ア「ル」/②「イル」(前項に同じ。但し、西日本諸方言に広く分布が認められるオルの使用は当地にはない。)
35. (そういう人も)いるよ ①ア「ル」/②「イル」(前項に同じ。)
36. (あなたは今何を)していたか 「シテ」タン 「カ
37. (私は今金魚を)見ていたよ 「ミ」タッタ
38. (金魚が今にも)死にそうだ 「シニソ」ーヤ/ 「シニ」ソーナ 「ナ」ー
39. (やっぱり金魚は)死んでいた 「シン」ダーッタ
40. 読み始めていた ヨミカケ「テ」タ
41. 読み始めたところへ(～た) ヨミカケ「テ」タ
42. 着くと同時に～した ツ「ク」ナリ
43. 着くと同時に～してくれ ツイ「タ」ラ ス「グ」ニ
44. 成りつづけている ①「ナリズメ」/②「ナッテル
45. (先生は今何を)しているか 「シテマスカ」(近畿中央部のハル敬語の使用は認められない。また、「なさる」系の形式もここでは用いられない。無敬語地帯というほどでもないが、第3者および対象に対する上向き待遇形式が用いられない。)
46. 好きだ 「ス」キヤ
47. 見られているのも 「ミラレテン」ノ
48. (今、運動会が)ある ①「ヤッテル」/②ア「ル
49. (降らなくて)よかったよ 「ヨ」カッタ
50. (先生がこっちへ)来つつある ①「キテル」/②オイデ「ル」(いわゆる尊敬動詞として、老年層ではこの形式が用いられる。45. でみたように、近畿諸方言でみられる尊敬を表す補助動詞の「なさる」・「はる」・「られる・れる」等の形式は共通語を意識し

た場面以外では用いられない。)

51. (犬がこっちへ) 来つつある ①「キ」ヨル／②ク「ル (ヨルには29.～31.でみたように下向き待遇が絡む。)
52. 似ている 「ニテル
53. (一週間も前から遊びに) 来ている 「キテル
54. (昔から) 苦勞していない 「シテナイ
55. (今はあまり) 苦勞しないでいる 「ク」ローセント 「イル
56. ～は売っているが、～は売っていない ～「ウツテルケ」ド、～「ウツテ」ヘン
57. (昔からタバコを) 売っている 「ウツテル
58. (今、大売出して衣料品を) 売っている 「ウツテル
59. (もう、3回) 来ている 「キテル
60. (いつも) 来ている 「キテル
61. (昔はいつも) 来ていた 「キテ」タ
62. (前に一度) 行っている 「イツテル
63. (先に) 行っておいてほしい 「イツテテ ホ」シー
64. 待っていないさい マツテテ 「ヨー
65. (外に) 待たせてあるよ 「マタセテル (本来、マタセタルとなりそうだが、テルを回答している。継続態のテルと結果態のタルとの使い分けはここでも微妙で、結果態が現れるべきところに継続態が現れるというのは共通語の影響によるものであろうか。)
66. 食べておいておくれ タベトイ「テ
67. (昔と) 違っている 「チゴテル
68. (昔は今のと) 違っている ①「チゴテル／②「チゴ」タル (テル・タルを併用している。両者の使い分けが上述のように失われており、意味的な違いはここでも認められない。)
69. (毎日梅干しを) 食べている タベテ「ル
70. (毎朝) している 「シテル
71. 気をつけていて (～した) 「キー」 ツケ「テ」テ
72. 行ったまま～ ①「イ」ツタ「ナリ／②「イ」ツタ「キリ (老年層での使用は～キリに比して～ナリの方が多い。)
73. ～しながら ①「シモテ／②「シガテ」ラ (～モテと～ガテラの区別は明瞭ではないが、全年層を通じて～モテが多く用いられる。)
74. ～の途中で～する 「イキシナ
75. ～の途中で～した ①「イキシナニ／②「イキガケニ
76. ～の途中で止めて～した ヨミ「カ」ケテ

77. ～したばかりだ ヨン「ダ」バツ「カ」リヤ
78. 無くなっている 「ナクナッテル
79. 無くなるぞ ナイ「ヨ」ニ ナ「ル
80. 掛けておいた帽子 ①カケ「テ」タ／②カケ「タ」ーッタ
81. 並んだ本 「ナランデル
82. 並べた本 ①「ナラベテル／②「ナラ」ベタ
83. ～読んでおこうか ヨンドコ 「カ
84. やってあるか ①「ヤッテル カ／②「ヤ」ッタル 「カ(テル・タルをここでも併用している。)
85. 壊している 「コワシテル
86. 壊れている 「コワレ」テル(コワレタルの回答を得られなかったが、結果態として、ここでは当然回答されてもよい形式である。)
87. 壊されている ①「コワサレ」タル／②「コワサレテル
88. のけてある ①「ノ」ケタル／②「ノケテル
89. 書き終わった カイテ 「シ」モタ
90. 書いてしまいなさい カイテ「シマワ」ンセ(尊敬を表す「ンス・サンス」系の助動詞が用いられるが、命令形に限られる。)
91. 書いてしまう カイテ「シマウ
92. 書いてみた カイテ「ミ」タ
93. (孫は今)入院している 「ニューーイン シテル
94. (弟も今)入院しているそうだ 「ニューーイン シテルソ」ーヤ
95. (きっと)よくなるよ 「ヨー ナル
96. (だんだん)よくなるよ 「ヨー ナル
97. 歳とるとね、 「ト」シ トッ「テ」 クル「ト
98. なおらなくなるよ 「ナオランヨ」ーニ ナッテ「ク
99. (犬が)怪我したので 「シ」タンデ(「怪我しヨッタので」という言い方は、この場合はしない。)
- (こどもが)怪我したので 「シ」タンデ(「怪我しヨッタので」という言い方は、この場合もしない。)
- (お父さんが)怪我したので 「シ」タンデ(「怪我しヨッタので」という言い方は、この場合もしない。)
100. 雨が降りつつある C「すでに降っている最中である」状態を指す。
貯金が増えつつある A「貯金が少しずつ増えようとしている」状態・B「すでに現にどんどん増えている」状態、両方の場合を表す。
貯金を増やしつつある B「増やそうとして少し貯金をし始めた」状態を表す。

Ⅲ. 総括(まとめ)

共通語と比較しての当該方言アスペクトの特色：

共通語では、継続態と結果態との言語形式に区別がないが、当方言ではこれらに区別がある。

和歌山県下のアスペクトは、かなり複雑な分布のもとで、豊富なヴァリエーションが認められる。当地の実態は、継続態テル、結果態タル（近畿中央部ではタールとなる）の地域である。和歌山市や同町の三尾村の継続態テル、結果態チャールとは異なる。和歌山県紀北地方では、和歌山市のパターンが代表的で、これは大阪府南部の岸和田市方言にも共通している。当地のパターンはこれとは異なり、むしろ近畿中央部〔京阪〕方言に近いといえることができる。

継続態テルの形式のほかヨルがある。これは、進行・継続を表すと同時に待遇が絡んでいる（同じ和歌山方言でも更に南部には、ヨルが純粹にアスペクトのみを表す〈待遇が絡まない〉方言も存在する。）。つまり、ヨルには、継続相を表すほかに下向き待遇（軽卑的）な意味が含まれている。当該方言では、継続態を表す場合に、動作主（第三者に限定され）に応じてテルとヨルとを使い分けているということが指摘できよう。これも大阪南部方言や和歌山県紀北方言とは異なり、近畿中央部〔京阪〕方言と共通する。

結果態では、タルが最もよく用いられる形式であるが、継続態のテルが動作が完了している場合にも、タルに替わって用いられることがある。従って、テルとタルとは、厳密には使い分けられていないというようにみることもできる。この点、世代差が大きく関与しているものと考えられる。すなわち、世代が下るにしたがって両者の使い分けが崩れる傾向にあるものと思われる。

(きしえ しんすけ 宮崎国際大学)